

# 歴史と文化に根ざした河川整備

研究第二部 主任研究員 坂本 俊二



## 1. はじめに

古来より川との関わりにより、地域の風土・歴史・文化といったものは育まれてきた。

今後の河川整備の方向性や管理を考えるうえで、このような、川とともに形成された歴史・風土・文化を含めて考えることが、その助けになるものと思われる。

本検討では、川と地域社会との歴史的な関わりと、そこから育まれた地域固有の風土などについての情報を収集し、歴史と文化に根ざした川づくりを推進するための方策を検討したものである。

## 2. 全国における歴史・文化特性への取り組み

歴史・文化特性として全国の国土交通省の各地方整備局・河川関係事務所では、市民への情報提供という形で、その取り組みがなされている。各事務所（178事務所を対象）が取り組んでいる歴史・文化に関わる情報を、アンケートを実施することにより調査した。

その結果、①パンフレットの配布、②シンポジウムの開催、③インターネットによる公開により、市民への情報提供がなされており、それぞれの情報に対し、次のことが明らかとなった。

表-1 歴史・文化特性にアンケート結果

情報提供方法	分析結果
パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域の歴史文化を平易に解説したものが多い。</li> <li>流域の総合学習のための資料とされている。</li> <li>先駆的な改修工事の紹介や治水工事についての広報に用いられている。</li> <li>過去の水害の被害状況、被害写真等の掲載により、災害の危険性、災害対策等の市民への周知に用いられている。</li> </ul>
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォーラムやシンポジウムを開催した事務所では、歴史、文化、舟運、河川環境等、多分野の専門的な内容を市民に情報提供し、今後の河川事業に対する理解と関心を促している。</li> <li>河川周辺の遺跡等の見学会、河川環境の体験学習等、河川への関心と理解を深化するイベント開催がされている。</li> </ul>
ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPを管理河川の歴史・文化を理解してもらう窓口としている事務所が多い。</li> <li>歴史の情報として、先駆的な治水事業、事業に関係した人物の紹介、洪水、舟運、沿川の史跡や遺跡を主なコンテンツとしている。</li> <li>文化関係の情報として、沿川の産業、伝統行事・祭り、川に関係した伝承・民話をコンテンツとしている。</li> </ul>

本検討では、上記取り組みに加え、伝統的な河川工法の技術書、川の文化財、土木遺産、技術史年表、伝統的な川の漁法等を国土交通省河川局のHP用画面（データベース含む）として作成した。これにより、広く市民へ川への認識を高めるとともに、河川行政への理解・関心を深めることとした。図-1にその一例を示す。

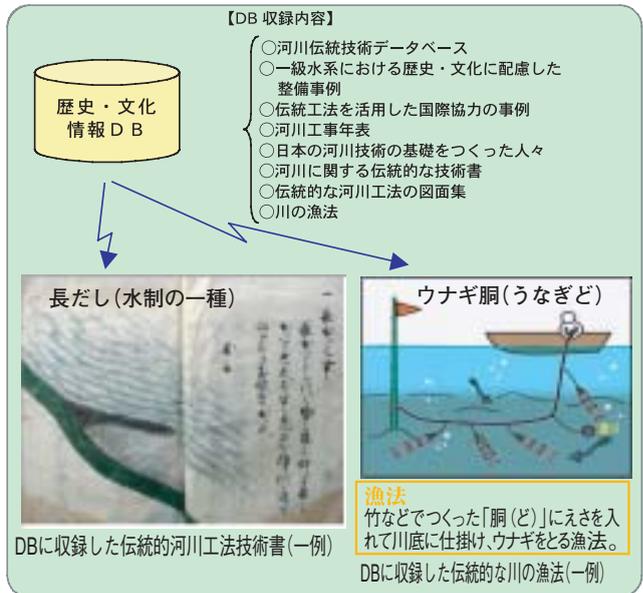


図-1 DB収録内容とHP作成画面

## 3. 歴史文化に配慮した川づくりのための技術開発課題の検討

第二次河川技術開発五箇年計画では、歴史・文化を活かした河川計画の手法や伝統的な河川技術の活用方法などに力点が置かれ技術開発が進められてきた。

一方、専門家のヒアリング結果やアンケート調査結果からは、今後は、歴史的な事柄をどのように評価・維持し、河川行政の中で活用していくのが課題であるとしている点が明らかとなった。今後の歴史・文化特性に配慮した川づくりの技術開発は、以下のような方向性で検討していく必要がある。

### 【歴史・文化特性に配慮した川づくりの技術開発の方向性】

- ①河川事業の歴史を検証する技術とそれを評価する技術の開発
- ②河川の風格を保つ技術開発
- ③歴史・文化をコミュニケーションツールとして活用する技術の開発
- ④河川伝統工法の基準化に関する技術

## 4. 終わりに

歴史や文化を活かした河川整備・管理を進めていくためには、その川が育んできた歴史・文化を調べ、認識することからはじめる必要がある。そのためには、文献データリスト、河川に関わる年表、歴史情報、文化情報といったものを、利用したいときに自由に取り出せるような、情報の整理を行うべきである。

また、川づくりを進めるうえでの問題点を解決するために、その川が持つ歴史や文化の活用、川がその地域に果たした役割を見極めていく必要がある。